

観光まちづくりかわら版

富士山と湖と高原のまち 日本の湖水地方

富士河口湖町の観光に関する興味深い情報やまちづくり情報などを紹介するかわら版です。

大石紬伝統工芸館が移転オープンしました！

大石紬伝統工芸館は、大石地区に伝わる山梨県郷土伝統工芸品『甲州大石紬織物』の継承を目指して、今から20年前の平成元年にそれまで大石保育所として使われていた建物を改修して開館しました。しかし建物の老朽化が進んだことから、今年の4月28日に観光客の利便性が高い湖畔エリア(大石小学校の隣)に新たに移転オープンしました。移転にあたっては、その場所に建っていた古民家も改修して活かし、手織りの展示、実演、体験を軸に伝統工芸の伝承を図る場所としてふさわしい外観の施設となりました。

ところで、大石の紬織にはどんな特徴があるか、ご存知ですか？大石紬伝統工芸館を切り盛りする広瀬初江さんにお話を聞いてきました。「1匹の蚕が作ったきれいな繭を正繭または本繭といいます。通常、正繭からとった糸で織ったものが製品になります。しかしときどき、2匹の蚕が一つの繭作ることがあり、そのような繭は玉繭またはクズ繭と呼ばれ、玉繭からはとった糸は所々にコブのようなデコボコがあるため、出荷できませんでした。このため、玉繭からとった糸では自分達が着る物、普段着を織りました。玉繭で織った着物は丈夫で暖かいのです。大石紬は、縦糸に正繭、横糸に玉繭を使って織ることにより、丈夫で軽く、柔らかく、そしてまた絹特有のすべりの良さと、なによりも堅牢で絹織物と紬織物の両面の良さを併せ持つ、他の紬織と異なった風合いを持っています」。

新しくなった大石紬伝統工芸館では、手軽な「繭動物作り」「ハーブ染め」「古布ブローチ作り」などの体験が人気ですが、事前に予約をすれば本格的な機織も体験可能です(2名まで)。50cm四方のテーブルセンターを織るには60分から90分かかります。織物が好きで、時々習いに通ってくる町内の小学生もいるそうです。皆様も一度体験して大石紬の良さを感じてみませんか？

大石紬伝統工芸館についてのお問合せ:TEL 76-7901 (火曜定休)



河口湖ハーブフェスティバルが始まりました

今年も恒例の河口湖ハーブフェスティバルが始まりました。6月19日(金)から7月12日(日)までの24日間、河口湖畔の八木崎公園と大石公園を淡い紫色のラベンダーが彩ります。

ところで、八木崎公園では期間中の平日の夜8時30分から、富士吉田市出身の童謡歌手、土屋朱帆さんのコンサートが毎日行われているのをご存知ですか？コンサートも今年で4年目となりますので土屋さんの歌声を楽しみにしている方も多いと思いますが、まだ聞いたことがない方はこの機会にぜひ足をお運び下さい。